

会議結果報告書

1. 会議名 平成30年度 第10回 印西市環境推進市民会議
2. 日 時 平成31年3月15日(金) 9:30~11:30
3. 場 所 印西市役所 会議棟2階 204会議室
4. 出席委員：岩井会長、上田委員、小山委員、白川委員、根本委員、橋本委員、平林委員、福井委員、松崎委員

事務局：黒田、海老原(環境保全課)

5. 傍聴者 0名

6. 配布資料

- ・会議次第、会議席次表
- ・市民会議での検討事項(グループ討議会議録)
- ・放置竹林の検討(資料)
- ・里山保全の検討(資料)
- ・SDGsの検討(資料)
- ・印西市環境推進市民会議委員募集要項
- ・審議会等の委員応募申込書

7. 内 容

(1) 開 会

(2) 議 事

①市民会議での検討事項について

グループごとに集まり発表内容を検討した。

②市民会議での検討事項の発表について

1. 「放置竹林の検討」

資料に沿って説明。

委員 Q シルバー人材センターの活用は他市ではやっているところもあるのか？

委員 A やっているところもある。

委員 Q なぜ印西市ではできないと判断したのか？

委員 A 登録者の年齢層が高く、高齢者には危険な作業と判断したため。シルバー人材センターには直接、問い合わせしていないが、センター側で受け入れ可能な業務なのかが焦点となる。

委員 「竹林」ではなく、「放置竹林」と記載した方が良い。

「動物」ではなく、「有害鳥獣」と記載した方が良い。

2. 「里山保全の検討」

資料に沿って説明。

委員 Q 今まで市が取り組んでいる事業との違いは？

委員 A 里山を観察して楽しむ事業から、実際に里山の保全活動を楽しむ事業へとシフトしたい。

委員 Q 「クリーンいんざい」とはどう違うのか？

委員 A 行政が主催する事業ではなく、市民（市民会議）が主催し、事業を展開するところが大きく違う。

委員 多くの参加者を継続的に募るためには、有償ボランティアも検討していく必要がある。

活動には備品や消耗品の購入や、ボランティアの昼食代ぐらいは支出したい。すぐに団体に加入し、活動に参加することはハードルが高いと感じている。まずは、里山保全活動を体験できる機会を増やしていくことが大切だと考えている。

活動の機会があっても活動を知らない人が多い、情報提供を充実させるべき。活動団体の中では高齢化が問題になっている。

活動を希望し団体に加入しても、義務の意識や当番があると敬遠されてしまう。

団体には時間がある時に気軽に参加できるような運営体制が必要だと思う。

提案した内容については来年度に具体化したい。

3. 「SDG s の検討」

委員 このまま何もしなければ人類は滅びてしまう。今から取り組まなければ手遅れになる。

目標の7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の日本への評価が低い理由は石炭の使用率が高いことに起因する。

原子力発電所の再稼働は疑問。地震が多い日本では安全に運用できない。

SDG s の目標項目には原子力の取扱いは記載していない。

原子力発電は完成品ではない。プルサーマル計画も頓挫しており、使用済み核燃料の処分方法が確立できていない状態で運用を続けている。

日本は原発を輸出しようとしたが、福島の影響もあり失敗している。

日本の消費電力を抑えてでも原発の再稼働は中止するべき。国民はもっと声を上げ政府に NO を突きつけるべき。

コンパクトシティーの構築も節電に繋がる。

合併時に市庁舎をニュータウンに移転し、そこを中心としたコンパクトシティーの構築を市に訴えたことがあったが、採用されなかった。

SDG s の目標を達成するためには、まずは国民が SDG s とは何なのかを多くの人に知っていただく必要がある。そのために SDG s の検討グループとしては、来年度の市民アカデミーで SDG s について説明したいと考えている。

③その他

委員 自分たちの生活を見直すことで、環境問題は改善できる。

環境問題は世界的に進行している。

特に氷河が凄まじいスピードで溶け出していることを懸念している。

市 来年度の市民会議委員の募集を3月1日から始めている。皆様からも応募をお願いしたい。

平成30年度 第10回 印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成31年3月25日

委員 福井 章夫

委員 平林 光子